



## Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

### 病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、昨年創業300年を迎え、新たな一步を踏み出しました。

第70期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)につきましては、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が、2017年2月より薬価が50%引き下げられた影響などから売上は減少しましたが、前期に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、当期中に効能追加された胃がん等へ使用が拡大したことと、オプジーボに係るロイヤルティ収入が大幅に増加したことから、売上収益は増収となりました。

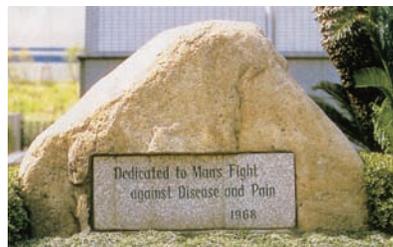
利益面では、オプジーボ関連の研究開発費の増加、およびオプジーボの活動費や「パーサピブ静注透析用」の新発売等に係る営業経費の増加に加え、前期に抗PD-1抗体特許侵害訴訟に伴う和解一時金収入を計上した反動もあることから減益となりました。

新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大するなかで、医療制度改革による種々の医療費抑制政策が強化されるなど、厳しい環境が続いています。当社は、研究開発力をさらに高めるとともに、将来の海外事業の拡大に向けて、次のとおり取り組んでいきます。

## 成長戦略

製品価値 最大化	持続的な成長を実現するため、オブジーボをはじめとする製品の価値最大化を目指します。積極的な研究開発活動、全社横断的な部門間連携と人材育成機能の強化を通じて、早期の上市・効能追加取得、上市から最短でのピークセールス達成を目指します。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現し、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組みます。
R&Dの変革	画期的新薬を継続的に創出するために研究開発力を強化します。化合物オリエントという創薬手法を基盤として、がんや免疫疾患、中枢神経疾患を重点領域に定めて経営資源を集中します。また、外部との研究・創薬提携も拡充することで、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。さらに、医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得にも積極的に取り組みます。
海外への挑戦	自社で創製した新薬を世界中に提供できるよう、特に抗がん剤などのスペシャリティー製品について、海外での自社販売を目指していきます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しており、今後は欧米での自社販売活動も視野に入れて、開発体制などの整備・強化にも努めます。
企業基盤の強化	さまざまな環境の変化に対応し、厳しい企業間競争に打ち勝つため、人材育成や多様性の向上に取り組むなど、企業基盤の強化に引き続き取り組んでいきます。さらに、企業の社会的責任(CSR)活動では、すべてのステークホルダーに対して社会的責任を果たすべく、活動を推進していきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、医療現場のニーズに沿った革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 **相良 暁**